

第105回総合科学技術会議本会議（平成24年11月2日）  
（総合科学技術会議ホームページより）



平成24年11月2日、総理大臣官邸において第105回総合科学技術会議を開催しました。

会議では、「科学技術イノベーションを巡る課題～ノーベル生理学・医学賞受賞を契機として～」という議題で、京都大学の山中伸弥教授による発表が行われ、その後、有識者議員、関係大臣により意見交換が行われました。

最後に野田総理から、「今日御説明頂いた課題というのは、iPS細胞を活用して、再生医療を実現するとか、新たな治療薬を開発するという課題ではあると思うのですが、それに留まらず、科学技術イノベーションを推進する上での、ある種普遍的な課題だと受けとめなければならないと思いますし、その課題を克服することが、第2、第3の「山中教授」を我が国から次々と生み出していく、その環境整備になるのではないかと受けとめさせて頂きました。

その上で、3点、政府が一丸となって推進してほしい取組を指示させていただきます。

第一に、iPS細胞を用いた再生医療を実現する為に、次期通常国会で薬事法を改正するなど関連法制の整備を行うとともに、安全規制面での基準整備、倫理面の検討を加速すること。

第二に、日本の研究の中核となる大学などにおいて研究環境の大胆な改革を進め、必要な研究支援人材群の確保を進めること。

第三に、独創的なアイデアや技術を持つ若手研究者を育成・発掘するため、新たな採択方式の採用など、研究費の改革を行うこと。

このような取組を通じまして、国家戦略の主要な柱である科学技術イノベーションを強かに推進し、iPS細胞を更にサポートしていきますが、それに続く、新たなイノベーションを幅広い分野で生み出していくように皆様と共に知恵を出していきたいと思っております。」との発言がありました。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/honkaigi/105index.html>